

R6年11月放送分
「令和6年版防衛白書について」
(日本の防衛Q&A)
(自衛隊百科)

R6.10.24 収録

【パーソナリティー】

今月の放送は、東北防衛局の池松局長から「令和6年版防衛白書について」というテーマでお話を伺います。池松局長、よろしくお願いします。

【局長】

はい。よろしくお願いします。

【パーソナリティー】

早速ですが、今、私の手元に防衛白書がありますが、まずは、防衛白書の目的・位置づけについて教えていただけますか？

それから、この表紙、金槌かなづちでどこかをたたいているように見えますが、この絵について教えていただけますか？

【局長】

目的・位置づけですが、防衛白書は、できるだけ多くの方に日本の防衛の現状、課題、取組について理解してもらうことを目的とした、防衛省の年次報告書です。

次に表紙ですが、コンセプトは「刀鍛冶かたなかじ」です。刀は防衛力・抑止力の象徴であり、これを鍛え、磨き上げるという意味が込められています。

【パーソナリティー】

今年の防衛白書にはどんな特色があるのですか？

【局長】

はい、令和6年版防衛白書は、我が国の防衛力、抑止力が、順調に

強化されていることについて、1年間の変化を丁寧に記載しています。

また、令和6年は、自衛隊発足70周年であるとともに、令和6年版防衛白書は、初版から数えて刊行50回目の節目でもありますので、これまでを振り返り、紹介することにも力を入れています。このため、巻頭に、我が国を取り巻く情勢の変化と、それに対応できるように歩みを進めてきた、防衛省・自衛隊の70年の歴史を、防衛白書とともに振り返る特集を設けています。

【パーソナリティー】

なるほど。今年の防衛白書では、どのようなことを重点的に記述しているのでしょうか？

【局長】

この一年の間の安全保障環境の変化、防衛力の抜本的強化の進捗等については、しっかり記述しています。防衛のための生産・技術基盤や隊員募集などの人的基盤についても、丁寧に記述しています。このほか、自衛隊・海上保安庁が必要な空港・港湾を円滑に利用するための公共インフラに関する取組など、必ずしも防衛省が主管ではなく関係省庁と連携して行う、国全体の防衛体制の強化のための取組についても、昨年版よりは多く記述しています。

【パーソナリティー】

なるほど。防衛白書は4部構成となっているわけですが、その内容を少し詳しく教えていただけますか？

【局長】

はい、第Ⅰ部は、「我が国を取り巻く安全保障環境」ということで、米国をはじめとする諸外国の防衛政策や、中国・北朝鮮・ロシアなどの軍事動向に加えて、ロシアによるウクライナ侵略の推移、中東情勢などについて、令和5年度に起きた事象を中心に記述しています。

第Ⅱ部は、「我が国の安全保障・防衛政策」に関して記述しています。「国家安全保障戦略」と「国家防衛戦略」、それに「防衛力整備計画」のいわゆる三文書について、簡潔に記述しているほか、防衛力整備と予算、防衛省・自衛隊の組織、自衛隊の行動に関する枠組みなど、我が国の安全保障・防衛政策の基本的な事項について記述してい

ます。

第Ⅲ部は、三文書のうちの1つである国家防衛戦略で示した「防衛目標を実現するための3つのアプローチ」に沿って、我が国の防衛力、抑止力を強化するための1年間の取組を記述しています。「防衛目標」は、端的に言えば、我が国への侵攻を含め、力による一方的な現状変更を許容しない、ということで、3つのアプローチは、第一に我が国自身の防衛体制の強化、第二に日米同盟の強化、そして第三に同志国などとの連携です。

第Ⅳ部は、「共通基盤の強化」ということで、防衛力の抜本的強化を実現するための基盤を強化する取組を紹介しています。具体的には、防衛生産・技術基盤の強化、人的基盤の強化、訓練・演習に関する取組や安全管理、地域社会や環境との共生などについて記述しています。

【パーソナリティー】

なるほど。防衛白書を通じて、池松局長が是非、リスナーの皆さんにお伝えしたい点は何ですか？

【局長】

はい、三つあります。

一つ目は、防衛力の必要性です。防衛白書を通じて、力による一方的な現状変更という問題が存在し、また、自分と無関係でないということ、そして、それをなくすためには防衛力も必要だということを感じていただくとありがたいと思っています。第Ⅰ部の「我が国を取り巻く安全保障環境」で記述しているように、ロシアによるウクライナ侵略をはじめ、力による一方的な現状変更やその試みは、現に存在しており、今後も起こり得ます。力による一方的な現状変更は、様々な不幸、悪影響をもたらすものであり、世界中の全ての人々がそれらの被害者となる可能性があります。力による一方的な現状変更をなくすために、我が国としては、外交力・防衛力・経済力・技術力・情報力を含む総合的な国力を最大限に活用することにしています。防衛力だけで全ての問題が解決するわけではありませんが、防衛力は最終的な担保であり、皆さんの命や暮らしを守るために不可欠なものです。

二つ目は、防衛力の進化です。防衛白書を通じて、自衛隊発足後70年間の防衛力の進化を感じていただくとありがたいと思っています。先ほど申し上げたように、今年には自衛隊発足70周年で、防衛白

書では、巻頭に特集の一つとして「自衛隊発足70年の歩み」を掲載しています。1954年7月1日に防衛庁が設置され、陸・海・空自衛隊が発足しましたが、この特集を見るだけでも、防衛力のその後の進化を感じてもらえるのではと思っています。個人的には、国際貢献のための任務の付与、弾道ミサイル防衛システムの導入、武力攻撃事態対処関連法制の整備、統合運用を基本とする態勢への移行、防衛庁から防衛省への移行、国家安全保障会議設置と国家安全保障戦略策定、平和安全法制の整備、安全保障関連経費はGDPの2%を目標とする旨の決定、などが印象に残っています。

三つ目は、国民や住民・地域社会の皆様の理解と協力の重要性・必要性です。防衛白書を通じて、様々な形で、日本の防衛と直接的な関わりを持つことに興味を持ち、また、行動していただけるとありがたいと思っています。例えば、政府は、防衛力の抜本的強化の一環として、自衛隊駐屯地・基地などの施設の強靱化を重視していますが、これを実現するためには建設業界の皆様の協力が不可欠です。また、政府は、防衛生産・技術基盤の強化や人的基盤の強化にも取り組んでいますが、これらの実現にも、様々な方々の理解と協力が不可欠です。さらに、政府は、日本の防衛に関する国民、住民・地域社会の皆様の理解と協力を得ることを重視し、情報提供、周辺対策事業などを行っています。

今申し上げた、防衛力の必要性、防衛力の進化、国民や住民の皆様の理解と協力の重要性・必要性といった点を含め、防衛白書が日本の防衛について、皆様の一層のご理解を賜る一助となることを期待しております。

【パーソナリティー】

詳しくご説明いただき、ありがとうございました。

それでは防衛白書を実際に読みたい場合はどうしたらよいですか？

【局長】

はい。これまで同様、全国の書店などで、約1,400円で販売するほか、防衛省ホームページから、無料でダウンロードできます。「自衛隊発足70年の歩み」、ダイジェストなど、防衛白書の冒頭部分約40ページを切り出したパンフレットや、主として小学校高学年、中学生、高校生向けで約20ページの「はじめての防衛白書」も、防衛

省ホームページから、無料でダウンロードできます。

【パーソナリティー】

分かりました。

本日は、令和6年版防衛白書について、東北防衛局の池松局長からお話を伺いしました。池松局長、ありがとうございました。

【局長】

こちらこそ、ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆様からご意見・ご感想を募集しております。

お聴きのコミュニティ放送局までご連絡ください。